

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078000082		
法人名	有限会社まんてん		
事業所名	グループホームまんてん	ユニット名	
所在地	福岡県久留米市三潯町草場33-1		
自己評価作成日	2021年2月22日	評価結果市町村受理日	2021年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
調査日	2021年3月29日	評価確定日	2021年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でご利用者様が出来ない所をサポートしている。
また、地域の中に溶け込めるような機会があれば積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームまんてん”は久留米市にあり、15年6月1日に開設している。ホームのパンフレットには「一期一笑」と書かれており、ホームの理念である「一人ひとりを大切に・優しい笑顔・人に優しく自分に厳しく」を大切に、日々優しいケアが行われている。日々の食事も大切にされており、調理師免許を持つ施設長を中心に、料理上手な職員が多く、3食手作りの美味しい料理を食べられている。散歩の時に“つくし”を探り、ホームで卵とじにしたり、庭で育てる“フキ”の皮むきをして頂き、季節の料理を楽しまれている。前回の外部評価以降、職員個々の目標を決め、日々の実践に繋げてこられた。職員同士の助け合いも日常で、「ありがとうございます」という感謝の言葉が日々聞かれている。社長、施設長、管理者共に、職員個々の頑張りを高く評価しており、今後も更に腰痛予防等を含めた“より良いケア(介護技術)”を習得していく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は日々の職場の中で理念と経営方針を念頭に活動している。	「一人ひとりを大切に・優しい笑顔・人に優しく自分に厳しく」という理念を大切にされている。優しい職員ばかりで、ご利用者の思いを大切にしたり関わりを続けている。理念にある「自分に厳しく」という視点も大切に、職員個々に自分の言動や、日々のケアの振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々への挨拶はもちろんのこと遊びに来ていただけるよう声掛けも行っている。	コロナ禍も地域の方から小松菜等を頂いたり、職員が清掃活動(溝さらえ)に参加している。コロナ以前は地域全体の地震想定避難訓練や、老人会主催のたご汁会、小学生の帰宅時の見守り活動に参加したり、「さくら会」の方の訪問があり、日舞や歌などを楽しんでいた。	今後も地域活動や行事等、参加できることを見つけていきたいと考えている。災害時等を含め、地域の方との協力体制を作ると共に、子ども達との交流方法を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の等の場において認知症の症状に対して理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価後の運営推進会議で報告を行いご意見をいただきサービスの向上に活かしている。	2020年5月・2021年1月はコロナ禍で書面会議に切り替え、職員のみで運営推進会議を行った内容を議事録に残し、次回の運営推進会議で説明した。毎回テーマを決めており、近況報告、研修報告、災害対策と共に、外部評価結果も報告し、「地域の方との連携」等の情報交換が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所に出向いた時に相談し助言をいただいている。	久留米市や地域包括の職員が運営推進会議に参加して下さり、地域の方との情報交換もできている。行動障害が見られる方の相談をしたり、コロナ禍における感染対策や運営推進会議の開催方法等のアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待委員会を設置しミーティングにおいて話し合いをし身体拘束を行わない介護を実践している。	入居時に「身体拘束をしない」事とリスクを家族に説明している。行動障害が見られる時は主治医に相談し、入院治療の検討も行われた。帰宅願望が見られる時も職員が寄り添い、家族との相談を続けており、運営推進会議(2020年11月)で「身体拘束と高齢者虐待」の情報交換も行われた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	疑問に思ったことやわからないことを話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにおいて内部研修を行うとともに全員ではないが外部研修に参加している。	権利擁護等の外部研修に社長(ケアマネ)、管理者が参加し、職員に伝達している。施設長が家族等に制度を説明しており、入居後も制度の必要性を検討すると共に、必要時は久留米市に相談するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行うとともに書面にて同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料のお支払いの時にご意見ご要望等を聞いて運営に反映させている	日々の生活の中で、ご利用者と会話をされている。ご本人から行きたい所や食べたい物などの要望を伺い、叶えるように努めている。面会時や電話で家族の要望を伺い、日々の暮らしぶりや行事などをお伝えすると共に、廊下に貼っている写真を見て頂いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や申し送りに意見や提案を聞いている。	日々の業務やミーティング時に職員と意見交換を行い、意見を伝えやすい雰囲気が作られている。職員主体で年間行事を企画し、散歩や花見等を楽しまれている。職員の要望に応じて、より良い介護技術の勉強も行われ、腰痛等の悪化防止に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年賃金を上げ、職員の努力や実績に関しては賞与に反映している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては一切の偏見はしておりません。また、職員の能力を生かせるよう努めている。	施設長が面接しており、お人柄と共に、「介護に関する固定観念が強くない、柔軟に対応できそうな方」等を採用している。管理者も職員からの相談や要望を受けると共に、職員の特技を引き出し、飾り付け(イラスト書き)等、お力を發揮して頂いている。希望休が取れるように勤務調整している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修・外部研修に参加し理解を深めている	コロナ禍も内部研修を行い、言葉遣いや接遇、口腔ケア、高齢者虐待等の勉強を続けている。「一人ひとりを大切に」「笑顔で挨拶」「行動制限はしない」「ダメという言葉を使わない」「ご利用者と会話する時は優しい笑顔で・・・」等を職員に伝えており、日々実践に繋げている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成するとともに、研修費や資格補助を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括圏域において事業所の勉強会があり参加させていただいた。また、良いことは進んで取り入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報・要望を聞き不安なく暮らせるよう関係を築いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様の要望を聞きできる限り意に沿えるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談の時点で、利用者様本人の状態を考慮し、他事業所サービスを含めた提案を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には「家族」という言葉を念頭に日々活動するように教育している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族が協力して利用者様本人を支えていけるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様から要望があればできる限り対応している。	ご利用者個々の生活歴を把握している。コロナ以前は、お墓参り、自宅周辺のドライブ、散髪屋などに行かれたり、老人会の“だご汁会”の時に馴染みの方ができ、参加を楽しみにされていた。友人の訪問や家族の面会もあり、家族のお通夜に行かれた方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でトラブルがあった時は職員が入って関係性が崩れないように注意し見守っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の性格・生活歴・経験等を考慮して、できる限り本人の意向に沿って生活できるように取り組んでいる。	入浴や夜勤時、居室などで、ご利用者の想いを伺っている。意思疎通が困難な方も、表情や行動等から思いを察している。「外に行きたい」等の願いを叶えるように努めており、家族との短時間面会等も行われている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時にご本人及びご家族様から生活歴・経験・既往歴等をできる限り情報収集するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の日誌を作成し、日々の心身状態、過ごし方がすぐに把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・見直しについてはミーティングにおいて職員で話し合い、より良いケアができるよう努めている。	入居前に情報を頂き、契約時に計画を説明している。介護計画には「洗濯物たみ」「散歩」等を盛り込み、“できる事”をして頂いている。生活歴を活かし、ツワやフキの皮むきをして頂いたり、折り紙で作品作りをされる方もおられる。体調変化に基づき、計画の見直しをしている。	今後も更に生活歴、アセスメント(ADL・IADL等の能力、認知能力、介助内容と理由、できそうな事、要望、課題の解決策)を増やすと共に、行動障害の原因も記録していく予定である。アセスメント結果に基づき、訪問看護師と薬剤師の役割を2表に具体的に記入し、訪問看護師と薬剤師にも渡していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を個別に作成し利用者様の心身状態を把握できるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様及びご家族様のニーズに対してはできる限り対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協・老人会・児童民生員・ボランティア・警察消防機関等と協力しながら支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は契約時にご本人またはご家族様に選んでいただいている。	施設長が受診介助し、主治医に体調等を報告している。週1回の往診があり、足の浮腫や水泡等の指示を頂いている。職員の観察力もあり、早期対応に繋げている。訪問看護師、薬剤師の居宅療養管理指導もあり、今後も介護計画との連動を強化していく予定である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきは往診時や訪問看護師に伝え、ご利用者様の健康保持に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様入院時には必ず職員が同行し、ドクターとの情報交換を行っている。入院中も病院訪問し状態把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所・ご家族・医療機関と連携を取りながら終末期ケアに取り組むことをご家族ご本人に説明し納得していただいている。	契約時に“看取り介護に関する指針”を説明しており、「今はわからない」「延命までは・・・」等の思いを把握している。体調変化に応じた話し合いを行い、「医療処置は望まず、ホームで最期まで」と願う方も多く、誠心誠意のケアが行われている。24時間体制で往診医や訪問看護師と連携でき、家族と職員の安心になっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応するとともに、わからない部分は医療機関等に相談している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。	2019年は地区合同避難訓練に参加し、2020年11月は消防署と避難訓練を行った。飲料水や食料を備蓄し、防災ラジオも設置し、タイムリーに情報を聞くことができる。豪雨時に浄化槽が溢れ、トイレが使用できない時もあり、災害用のトイレも購入した。今後も避難のタイミングを慎重に検討予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員とご利用者様がなじみの関係にはあるものの言葉遣いには注意するよう日々の活動時やミーティング時に指導している。	日々のケアの中で、ご利用者の自尊心を傷つけないように努めると共に、馴染みの関係でもあり、「親しき仲にも礼儀あり」という思いを大切に、優しい声かけを続けている。希望に応じて同性介助を行い、個人情報を漏洩しない取り組みも続けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においてもご本人様が選択できるような声掛けを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日のスケジュールがあるものの無理にその流れに乗せるような対応はせず、利用者様のペースを大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様・ご家族様に納得していただいたうえで訪問理容を利用していただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の要望を聞き、その意見を献立に取り入れている。	施設長は調理師で、ご利用者の要望を取り入れた献立にしている。旬の美味しい料理が作られ、ご利用者も皮むき(フキ、ツワ、つくし等)、テーブル拭き、下膳等をして下さる。嚥下状態に応じた食事も作られ、器や盛り付けに配慮している。散歩の時に収穫した“つくし”で卵とじを楽しまれた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量・水分摂取量を個々に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し気持ちよく排泄できるよう対している。	布の下着を使用し、自立している方々もおられる。自立支援の視点を大切に、必要な介助が行われている。排泄時はカーテンやドアを閉めているが、カーテンを閉める事を拒む方もおられ、職員がさり気なく目隠し役になっている。カテテルを使用する方もおられ、感染対策に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理を個々に行っており、必要な場合にはかかりつけ医に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日・時間帯は設定しているが希望があれば柔軟に対応している。	膝の痛み等があり、ご本人の希望で全員シャワー浴をしている。拒否が見られる方は無理強いせず、時間をおいて声かけしている。ご利用者の肌に応じて、綿素材のタオルを使用する方もおられ、できる範囲は洗って頂いている。職員との会話を楽しみ、季節に応じて菖蒲湯をされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様には自由に休息をとっていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の薬情を管理するとともに職員全員が内容を把握し症状の変化の確認に務めるとともに、かかりつけ医や薬剤師に情報提供している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かした草花の手入れ洗濯物量み等を手伝っていただき生活の活性化に努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はご利用者様個々に聞いて支援している。	コロナ禍も感染対策をしながら職員とホーム周辺を散歩し、地域の方と挨拶をしたり、桜の花見や“つくし採り”を楽しまれた。コロナ以前は季節の花見(梅、藤、菖蒲、薔薇、向日葵、秋桜など)に行かれたり、柳川の下げ門巡りや足湯(温泉)を楽しまれた。“ゆめタウン”でお菓子を買われる方もおられた。酒蔵の蔵開きに行き、ぜんざいを食べたり、ペンガウ村の公衆浴場を利用し、外食などを楽しんでいた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方は立替を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使っている。手紙も要望があれば支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植木・草花・装飾品四季折々の写真や折り紙、ご利用者様の写真等全体に取り入れ明るく和やかな空間づくりを心掛けている。	ホーム内の掃除や換気も徹底されている。廊下の幅も広く、車いすの方もスムーズに自操されており、廊下の壁に掲示している外出時の写真を見て、思い出話をされている。ご本人が作られた折り紙の作品や、家族が作られた手芸作品をリビングに飾ったり、壁に張り巡らされた観葉植物も美しく、和やかな雰囲気になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを設置し気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。		

56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス利用前に極力使い慣れた物を持ち込んでいただけるよう説明している。	電動ベッドは備え付けである。寝具やタンス、仏壇などと共に、鏡やブラジを持ち込まれている。写真も飾られており、ホームからのクリスマスプレゼントの膝掛けを愛用されている。家族が居室のレイアウトをして下さり、家族手作りの手芸の作品を飾っている方もおられる。	
----	------	---	--------------------------------------	---	--

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室及び共有空間においてご利用者様にとって障害物を極力排除し、安全に移動ができるよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				